

資料 4 カトリック社会活動神戸センターについて

1998年5月1日現在

独立から現在に至るまでの経緯

1995年1月17日「阪神・淡路大震災」直後の19日、被災地におけるカトリック大阪大司教区の緊急救援基地として「カトリック中山手現地救援本部」が設立され、多くの若者やボランティアが全国から救援活動に参加した。救援活動はおもに「公的支援の谷間にある人」に焦点を絞って開始された。活動内容は①滞日在日の外国人支援、②路上生活者支援、③在宅・避難所の独居老人などへの支援となった。

同年10月、「カトリック中山手現地救援本部」は、緊急救援体制を終了し、恒常的取り組み体制へと切り替えながら、1996年1月17日「カトリック社会活動神戸センター」と改称した。翌年9月、神戸地区宣教評議会が当センターの活動を神戸地区の福音宣教活動の一つとして確認し、多くの市民団体やボランティアグループと共に協働体性を取りながら、新生計画を生きる地区としての歩みをめざしている。

現在の活動内容

① 滞日外国人支援

「教区国際協力委員会」及び「NGO外国人支援ネット」との連携において必要に応じた滞日外国人の支援活動、緊急時のシェルター提供。

② 路上生活者支援

- ・「夜回り」「日中回り」＝ 一晩の夜回りで出会う、野宿を余儀なくされている人々は、神戸市中央区内でも約150人～190人を数える。
- ・「交流の日」(支え合いの場)＝ (火木土)医療・生活相談、風呂、散髪サービスなど。
- ・「対行政への取り組み」＝ 生活保護の申請、野宿を余儀なくされている人々に対する意識や行政機関の対応改善要求等
- ・「神戸の冬を支える会」＝ (超教派の運動)との連携＝路上生活者への日常的支援と越冬越年生活を支える活動

③ 高齢者、障害者、仮設住宅訪問

仮設住宅から復興住宅へと転居が行われている状況の中でとりわけ独居老人への支えが以前にもまして必要となっている。地域の訪問ボランティアグループ及び神戸地区内の小教区ボランティアグループとのネットワークづくりの中で、以下のことが行われている。

- ・ 仮設住宅、復興住宅の独居老人への安否確認訪問、病床訪問、など。
- ・ 「お話し電話」による生活、医療相談。
- ・ 仮設住宅内の「ふれあいセンター」運営支援協力、復興住宅の自治会支援活動など。

④ その他の活動

- ・ 「新生神戸連絡会」(被災教会間のミーティング)＝これからの新生教会像を語る会。
- ・ 「中山手ミーティングゆうゆう」＝アルコール問題などさまざまな生活の問題を抱える人々との分かち合いの場
- ・ 「COME&SEE」＝ボランティア育成プログラムと体験学習の場
- ・ 『新世紀』(ニューズレター)隔月発行。神戸からの発言。
- ・ 「A.A会」「摂食障害自助グループ」等との連携。